

You, Unlimited

Faculty of

Policy Science



RYUKOKU
UNIVERSITY

龍谷大学
政策学部

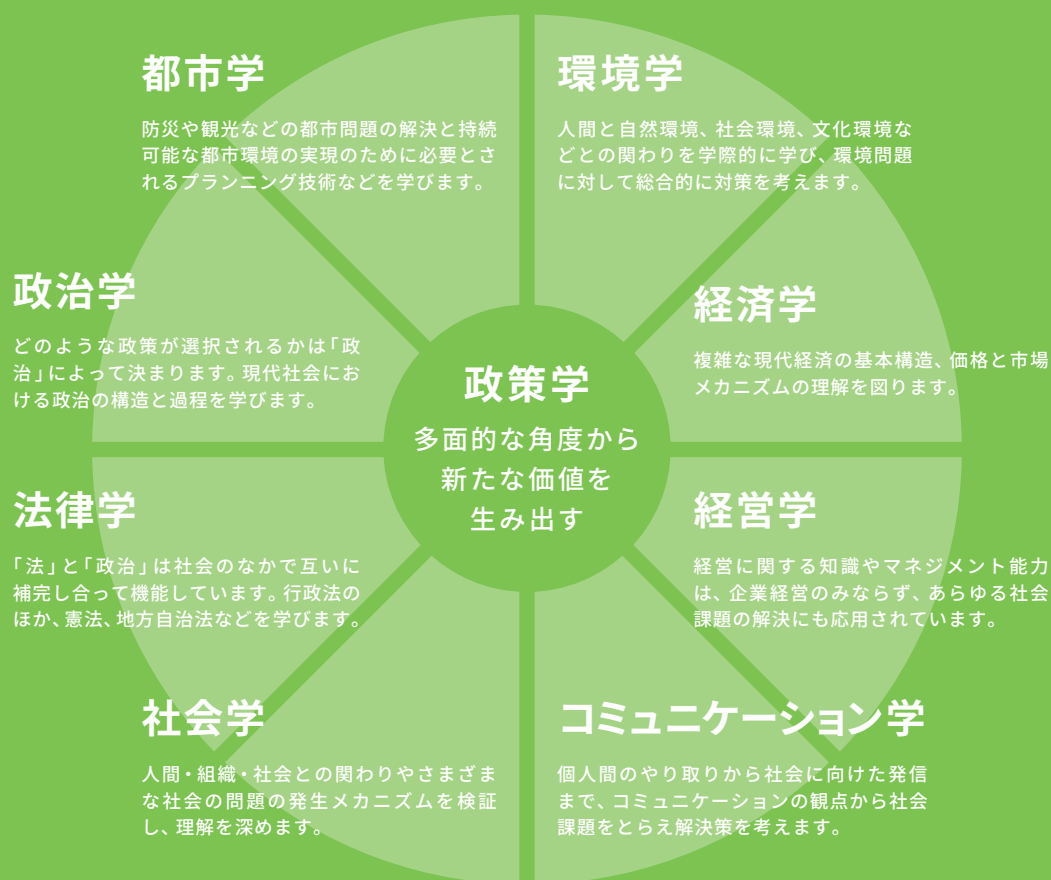
2026

Creating New Values

#まちづくり #フィールドワーク #地域
レジリエンス #持続可能性 #人口減
少 #NPO #地方創生 #オーバーツー
リズム #地域的課題 #コミュニティ
#自然災害 #循環型社会 #環境問題

持続可能な 地域社会を目指し、 新たな価値を生み出す

現代社会には、さまざまな要素が複雑に関係しているたくさんの課題があります。
それらを解決するためには、幅広い専門性と知識、
そして解決するための実践的な力をもつ人材が必要です。
政策学部では、理論と実践のカリキュラムで、社会の課題を発見し
解決に向けて自立的に取り組む市民性を身につけた人材を育てます。



Projects #1

政策実践・探究演習

▼ 解決をめざす「社会課題」

里山や耕作放棄地の整備不足

栗野 杏さん

3年生
(広島県山陽学園高等部出身)



山をよみがえらせるために 人と自然の距離を縮める

衰退の一途を辿る過疎地域で
学生視点から持続可能性を探る

福知山市中六人部地域では、少子高齢化と人口減少の影響で耕作放棄地が増え、里山の手入れも行き届かなくなっています。かつては鎌一本で生活できるほど豊かだったという自然も、人手不足が原因で放置されたまま、今では松茸の収穫時期だけ山に入る程度だと聞きました。現地の人々が「若い」と呼ぶ方々の年代も既に60歳以上、このままでは、地域の存続さえ危ぶまれます。福知山プロジェクトでは、こうした深刻な問題に焦点を当て、現地の方々と協働しながら課題解決に取り組んでいます。「いきものがかり」「歩歩探検隊」「ててまる。」の3つのグループに分かれ、地域生物の再評価や地域の魅力発掘、そしてマツタケ山の整備と、持続可能な未来に向けて、自分たちにできる活動をすすめています。決して便利とはいえない地域も、外部の視点から見ると、豊かな可能性を秘めています。持続可能な未来に向けて、私たちの挑戦は続きます。

地域再生活動の深化とともに
深まる現地の方々との関係性

私たちの活動の中心は、地域の方々とのワークショップと実践的なフィールドワークです。マツタケ山の整備では、枯れ木の伐採や落ち葉の除去を行い、収穫することができた松茸をわずか1年で9本から32本に増やすことができました。生き物調査や地域の歴史探索、キノコ探索会など、多角的なアプローチから地域の魅力を掘り起こし、次世代へと継承する活動を展開しています。そうした私たちの活動は当初、現地の方々の目には稀有に映ったようです。それが、自ら積極的に声をかけ、アプローチしていくうちに「学生さん」という総称で呼ばれていた私も名前で読んでいただけるようになりました。さらに、現地の方々だけで大木を倒し、私たちが活動しやすいように力を貸してくださいました。協働作業によって、単なる調査活動の枠を超えた深い関係性を築けていることがとてもうれしく、私たち自身も地域の一員として成長しているのを実感しています。



政策実践・探究演習（国内）

「政策実践・探究演習」は、さまざまな地域の問題解決にチームで取り組むPBL（Problem／Project Based Learning）科目です。話し合いによるまちづくりや、農産物のブランディングをととした農村づくり、地域資源の再発見・評価を通じて地域社会の活路を見出す取り組みなど、複数のプロジェクトがあり、学部生と大学院生が共に参加し学び合います。学生が自分たちで地域課題を分析し、地域住民の方々や、行政、専門家と協力しながら活動することを通じて、論理的思考力や表現力、マネジメント能力などを身につけることができます。（科目の詳細は本学Webサイトから「Webシラバス」をご確認ください）

受け継がれてきた先人の知恵を 地域と協働して次世代へ受け継ぐ

福知山プロジェクトの活動を通じて、私たちは地域の方々から貴重な知恵と経験を学んでいます。長く土地に根ざして生きてきた住民の知識量は驚くほど豊富で、山菜の見分け方や自然との共生の手法、イノシシの生態など、座学では知ることができない実践的な学びを得ています。また、京都府農林水産技術センターの職員さんの協力のもと、地域の方からの提案でキノコ探索会を実施したり、地域の歴史を辿るウォーキングイベントを計画したり、さまざまな角度から地域再生の取り組みを推進しています。今はまだ住民やその親戚、関係者のみの参加ですが、この先もっと活動が盛り上がれば、他の地域からも集客できるかもしれません。私たちの活動は、単なる学術的な調査ではなく、信頼関係を基盤とした相互理解のプロセスです。立場や年代が違っていても同じゴールに向かって協働することで、みなさんが大切に守ってきた知恵や地域特有の文化を、次世代へ受け継いでいきたいと思います。

地道な活動の継続が 地域の可能性を切り拓くと信じて

フィールドワークに行く前には必ず、座学をととして必要な知識や情報を収集します。松茸の成長に適した環境や里山の現状、さらには現地でのワークショップをスムーズにするためのファシリテーターやグラフィッカーの役割についても学びます。きちんと段取りを踏み、地域の基本情報を押さえておかなければ、現地の方々が真に解決したいと思っている課題を見つけ出すことは困難だからです。今後の展望は、関係人口としての継続的なかわりです。地域の方々との信頼関係を基盤に、将来的には地域外の方々を呼び込むイベントの企画や、子どもたちの自由研究支援など、より広い視点での地域活性化を視野に入れています。特に、夏休みや帰省期間を活用した子どもたちとの自然体験プログラムは、地域の魅力を次世代に伝える重要な取り組みになるでしょう。この活動が、里山の新たな可能性を切り拓く一歩となると信じています。

Projects #2 韓国 PBL

▼ 解決をめざす「社会課題」

日韓の若者問題

山田 照英さん

3年生
(兵庫県 神戸市立科学技術高等学校 出身)



日韓の若者政策を比較研究 現地調査を通じて見えてきた 両国に共通する課題と 二国間で異なる解決への道筋

社会的・経済的・歴史的な違いを超えて
日韓の学生が「若者問題」という共通のテーマに挑む

政策学部が実施している韓国 PBL に参加し、「若者政策の日韓比較」をテーマに調査・研究を行いました。私たちが取り上げたのは、「日韓における若者の貧困問題と政策比較」です。事前学習として日本の若者の現状や貧困の原因について学んだのち、韓国ソウルへ向かいました。現地では、研究機関や若者に関する団体などを中心に若者問題に対するヒアリング調査を行いました。現場の声から見えてきたのは、不安定な雇用拡大による若者の経済的困窮と貧困層の増加、そして、若者の貧困に拍車をかける厳しい雇用慣行でした。生活の安定や将来への展望が見えにくくなっている韓国社会で安定したキャリアを築くには、経済的支援とキャリア教育の両面から手立てを考えなければなりません。また、ハードな雇用慣行に対しては、終身雇用の拡大や強化、若年層に対する社会保障制度の充実といった労働市場の改革も不可欠となるでしょう。いずれの場合も、韓国政府による積極的かつ実効性のある支援策の検討が求められています。

フィールドワークの調査をもとに、私たちなりに韓国の若者問題の背景を探り、解決策を考えました。調査結果をまとめて臨んだ韓国中央大学との交流プログラムでは、それぞれの視点から日韓の若者問題や政策を比較、検証しました。両国間の社会的・経済的な相違点、両国に通じる共通点が明らかになり、韓国の若者の深刻な引きこもり問題やその背景にある社会的な根本要因を深く理解しました。同じ若者問題でも国や地域によって要因はさまざまで、解決の手立ても決して一つではありません。異なるバックグラウンドをもつ同世代の学生との意見交換をとおして、社会情勢に対する意識が向上し、これまでとは違う多角的な視点で物事を捉えられるようになったと思います。帰国後は、PBLでの学びや気づきをまとめ、学内報告会で発表しました。事前学習から事後報告に至る今回の取り組みは、多様な視点から学び視野が広がる貴重な経験でした。今後も他者の視点や意見を取り入れ、自身の考えを深化させていきます。

政策実践・探究演習（海外）

アクティブラーニングを通じ、グローバルな視点をもった地域づくりを実践的に学ぶ科目。事前学習を経て、韓国以外にも、ヨーロッパやアジアなどで長期休暇を利用して現地プログラムに臨むことで、グローバルな視野をもつために必要な価値観の理解を深め、コミュニケーション能力や国際的な視点から地域社会の課題解決に取り組む能力を身につけます。

Projects #3

地域レジリエンス論

▼ 解決をめざす「社会課題」

災害に対する社会の脆弱性

中島 律さん

3年生
(大阪府立桜塚高等学校 出身)



地域レジリエンスの理論を学び 防災・減災への意識を高める



地域レジリエンス論

自然災害によって被災した地域の現状と、自然災害による被害から地域がしなやかに回復するために必要となる政策について学ぶ科目。災害から命を守り、被害を減らすためのアプローチを修得するとともに、災害と地域との関係から、より良い地域のあり方を考察できることを目標とする。

レジリエンスの理論を実践し、災害に強い社会をつくる

自然災害による被害を最小限に抑え、地域社会の回復力を高めることは重要な社会課題です。この授業では、災害過程と支援策、生活再建支援制度など、地域レジリエンスの基礎を学びます。災害前の防災対策から被災後の復興プロセスまで、幅広い観点で地域防災への理解を深めました。

これらの知識は、ゼミ活動の一環で行っている能登半島地震の被災地支援にも役立っています。被災地での生活再建調査や住民とのかかわりを通じて、地域に応じた支援の重要性を実感しました。学びと実践の経験を活かし、災害に強いレジリエント社会の構築に貢献したいと思います。

Projects #4

Ryu-SEI GAP

▼ 解決をめざす「社会課題」

子どもが相談できる居場所／ 交流を楽しめる環境づくり

針生 英さん

3年生
(兵庫県 仁川学院高等学校 出身)



高橋 由衣さん

3年生
(京都府立鴨沂高等学校 出身)



社会に潜む課題を見出しその解決策を探る

針生さん：児童とのイベント

高橋さん：コミュニケーションに悩む方との取り組み



Ryu-SEI GAP

Ryu-SEI GAP (Glocal Action Program) は、地域社会の課題解決に取り組む正課外の実践型プログラム。京都市「伏見いきいき市民活動センター」を拠点に、地域の課題意識を共有した学生が、地域コミュニティの衰退、若者の地域定着、子ども・高齢者の居場所づくりなど、幅広い課題ごとにプロジェクトチームに分かれて大学周辺地域で活動に取り組みます。

地域に根ざして人と人をつなぐ、Ryu-SEI GAPの挑戦

子どもの居場所づくりをめざし、地域と連携して「駄菓子屋すまいるプロジェクト」と「すまいるメモリープロジェクト」を実施しています。学生ならではのアプローチから子どもと親密な関係を築き、貧困や孤独といった切実な悩みに寄り添いながら、その解決策を探っています。(針生さん)

コミュニケーションに関する悩みを抱える学生に寄り添うイベントを実施しています。学生の悩みの把握と原因の追究を行い「自分の問題だ」と悲観しがちな学生に対して、肯定的な体験の場を提供することで、コミュニケーションにおける課題の解決をめざしています。(高橋さん)

Hot Topics

政策学部取り組み

1 1年生から地域社会へのフィールドワークを実施

地域での活動をととして社会とつながることで、地域の方々とのコミュニケーション能力の育成や、課題を発見する気づきの力を養います。さらにヒアリングやアンケート調査の手法を学び、実際に調査を行うことで、その地域での課題解決に向け研究をすすめます。1年生から現場に出て学び、地域の方々と協働して課題を解決できるようなカリキュラムとなっています。また、正課外の活動では、「Ryu-SEI GAP」といった地域の課題解決に取り組むプロジェクトを行っている学生もいます。このような活動をととして、プロジェクトメンバーと協力して目標を達成するチーム力を身につけ、どのような道に進むとしても必ず役に立つ力を育成します。



2 地域の未来をデザインする人材へ

政策学部では「初級地域公共政策士」の資格が取得できます。本資格は環境問題や雇用問題、少子高齢化、人口減少、産業衰退といった社会的課題を産官学民の連携のもと解決するため、協働型社会にふさわしいアプローチで地域の公共的活動や政策形成の主導およびコーディネートができる人材「地域公共人材」の能力を保証する地域資格制度です。課題発見力（地域に根差した課題を見つけ出ししていく力）、課題分析力（発見された地域の課題に対し、多角的に分析していく力）、課題共有力（地域の課題に対して、チームで課題解決に取り組む力）、地域で活躍できる力（さまざまなセクターによって担われる地域の公共的な活動を理解し、社会全体に主体的に関与できる力）をアクティブ・ラーニングをととして身につけていきます。



3 1年生を支えるクラスサポーター

レポート、レジュメの作成や設定されたテーマについてグループで議論することなど1年生をサポートする上級生をクラスサポーターと呼びます。大学での学びに欠かせないスキルを身につけるためのアドバイスや学生生活に関する相談まで先輩ならではの経験をもとにサポートしてくれる強い味方です。また、1年生同士が親睦を深められるようなイベントを企画・運営し、より良い大学生活をスタートすることができます。



4 少人数クラスの演習で段階的に学びを深める

演習（ゼミナール）は、講義科目とは対照的に、学生が中心となって学修をすすめています。1年次に開講する約20人クラスの「基礎演習」では、4年間に有意義に過ごすノウハウや政策学を学ぶために必要な能力を修得。2年次前期からは、対話・議論能力を身につけ、2年次後期から始まる「演習Ⅰ」に向け段階的に学ぶことができます。



4-Year Studies

学部サイト



4年間で何を学ぶ？

課題解決を超えて新たな価値を生み出す人材を育む

	1年次	2年次	3年次	4年次
4年間の流れ	基礎をしっかり身につける ●政策学を学ぶうえで必要となる基礎知識を修得する科目を受講。 ●「基礎演習」で、大学での学びの基本「読み・書き、語り、調べ、考える」を身につける。 ●「政策学入門（経済学・政治学・法学）」や「政策学を学ぶ」などで、政策学の基本を学ぶ。	自分にぴったりのコースを選択 ●話し合いの構造やプロセスを学ぶ「コミュニケーション・ワークショップ演習」で、参加・協働型社会に必要な話し合い能力の育成を図る。 ●後期からは「政策構想・環境創造・地域公共人材」の3つまたは学部共通コースのなかから自分に合うコースを選び、専門的に学ぶ。	専門性を身につけ社会を見る目をじっくり鍛える ●コースごとに専門性を高めるプログラムを展開。 ●フィールドワークやインターンシップなど、地域や企業、NPOの現場に入って実践的に学ぶ。 ●2年次後期から一貫したゼミに所属し、卒業研究を制作するための準備がスタート。	進路を見据えた学び、活動、そして4年間の総括 ●4年間の学びの集大成として、ゼミ活動やRyu-SEI GAPなどでの研究成果をまとめた卒業研究に取り組む。 ●就職活動も本格的に始まり、学部で経験してきたことを企業に伝え自己アピールするうちに、自身の活動や成長を振り返るきっかけに。
専攻科目	[専攻導入科目] ●基礎演習Ⅰ、Ⅱ ●政策学を学ぶ ●持続可能性と共生を学ぶ ●現代社会の市民性を学ぶ など [専攻基本科目] ●政策学入門（政治学）●政策学入門（法学） ●政策学入門（経済学） ●政策学のための統計・数学 など	グローバル・シチズンシップ・エデュケーション科目 (公共性・コミュニティ、民主主義、平和構築、人間の安全保障)	政策構想コース ●地域・都市政策プログラム ●国際・比較政策プログラム 環境創造コース 地域公共人材コース 学部共通コース	日本、そして世界の地域政策を学ぶ ●地域・都市政策総論 環境にやさしい社会を実現する政策主体の役割を創造する ●環境政策総論 地域社会および地域政策の担い手としての職業人をめざす ●地域公共人材総論
演習科目	基礎演習Ⅰ 基礎演習Ⅱ 地域課題発見演習	コミュニケーション・ワークショップ演習	演習Ⅰ 政策学研究発展演習Ⅰ～Ⅴ キャリア・コミュニケーション演習 企業のCSR実践演習 グローバル戦略実践演習 政策実践・探究演習（国内）・（海外）	演習Ⅱ（卒業研究含む）

[取得可能な免許・資格]

- 中学校教諭一種免許状（社会）
- 高等学校教諭一種免許状（公民）
- 本願寺派教師資格（受験資格）
- 「地域公共政策士」資格制度「初級地域公共政策士」
- グローバルプロジェクトマネジャー（GPM）

[めざす職業・進路]

- 公務員（国家・地方）
- NPO／NGO団体
- シンクタンク
- 民間企業の企画部門
- 社会起業家
- 環境問題に取り組む企業
- メディア系企業（放送・新聞）
- メーカー
- ジャーナリスト
- 金融機関 など

Seminars

ゼミ紹介

高畑 重勝 ゼミ

観光過密化による諸問題

観光政策で挑む地域活性化 住民とつくる持続可能な観光のかたち

観光による負の影響に着目し、その解決策を探る

私が高畑ゼミを選んだのは、観光がもたらす光と影の両面に向き合い、その解決策を探りたいと考えたからです。コロナ禍を経て、観光産業は大きな転換期を迎えています。観光客の過密化（オーバーツーリズム）が地域社会の大きな負担となり、人口流出や伝統文化の衰退も深刻な問題となっています。観光地として世界的な人気を誇る京都は、特に観光公害による課題が顕著です。ゼミでは、これらの課題解決に向け理論と実践の両面からアプローチしています。力を入れているのが、各地域の観光協会や自治体といった観光政策の担い手を訪ねるフィールドワークです。観光産業は、行政だけでなく旅行会社や飲食店、宿泊施設、交通機関など多様なセクターが絡み合って成立しています。現地調査も、多角的な視点から考える必要があるのです。

地域住民を巻き込み、観光政策を成功へ導く

観光客の集中による地域コミュニティの崩壊、伝統行事の継承問題など、複雑に絡み合う課題の実態を調査し、グリーンツーリズムやマイクロツーリズムといった新しい観光コンテンツへの理解も深めています。そのなかで気づいたのは、観光政策の成否は地域住民の参画にかかっていることです。魅力的な観光コンテンツをつくっても、住民の理解と協力なしでは、真の地域活性とはなりません。住民がその土地の魅力を再発見することで、地元愛が深まるという例もあります。そうした学びや気づきから、卒業論文は「地域に根ざした観光政策」を取り上げる予定です。観光には地域課題を解決する大きな可能性があります。暮らす人がまず地域に愛着をもち、観光の価値を実感できる。そんな観光政策の実現をめざし、研究を重ねていきたいと思います。



田宮 和瑒さん

3年生
(愛知県立瑞陵高等学校 出身)



その他の研究室テーマ

- 持続可能な〇〇の検討によって、地域社会の課題解決に貢献する
- 食と農に関わる課題解決を通じた地域再生、ソーシャル・イノベーション
- 住みたいと思えるまちのメディアをつくる
- 経営・心理・統計を融合させて、おもしろい研究を大真面目に行う
- 教育や福祉さらには平和といった政治・社会問題を憲法の視点から考える
- 地域経済や地域社会、地域環境を持続的に維持・保全するための制度・政策について考える



村田 和代 ゼミ

コミュニティの希薄化

ことばの壁を超えて互いを理解し合う やさしい日本語でつながる共生社会

相互理解の欠如を解決する方法を探る

村田ゼミを選んだのは、多様な背景や価値観をもつ人々が共生できる社会を実現したいと考えたからです。現代社会では、ことばの壁による地域コミュニティの分断がすすんでいます。なかでも、外国人住民と地域住民のコミュニケーション不足による相互理解の欠如が顕著です。この問題は、災害時の避難誘導や日常生活支援など、地域の安全や暮らしに直結する場面で特に深刻です。こうした課題に対して「やさしい日本語」を活用した実践的な取り組みを行っています。その一例が、地域住民や留学生、子どもたちが参加する防災ワークショップです。「避難」を「安全な場所に逃げる」と言い換え、イラストを活用するなど、参加者の言語レベルにあわせた表現を用いることでことばの壁を低くし、全員が主体的に参加できるよう工夫を重ねました。



相手を尊重する姿勢で共生社会の実現をめざす

ゼミ長として活動を率いるなかで、意思疎通の重要性にも気づきました。意見の違いや困難に直面しても、個々の考えに耳を傾け互いを理解し合うことで、より良い解決策を見出すことができました。この経験から、卒業論文では「リーダーシップとコミュニケーションの関係性」を掘り下げる予定です。村田ゼミの特徴は、学生主体でゼミ活動をデザインできる点です。取り組むべきときは全力で、楽しむときは思いきり弾けるというメリハリを保ちながら、自分たちの企画を実践してきました。先輩方と活発に意見を交わし、就職活動の相談に乗っていただくこともあります。ゼミ活動によって強くなったこの絆は、今後の研究活動における大きな推進力となるでしょう。誰もが自分らしく活躍できる共生社会の実現に向け、これからも挑戦し続けます。



清水 菜那さん

3年生
(京都府 京都成章高等学校 出身)

- 地域における公害・環境問題の歴史を学び、地域づくりに活かす方法を学び、実践する
- コミュニケーションやことば(言語)を切り口に社会的課題をとらえ解決策を考える
- 災害・交通の観点から「地域を守る政策」に関する理論と実践について考察する

- 持続可能な地域社会のあり方について、自治・協働の観点から研究する
- 行政、地方自治にかかわる重要問題の調査・分析
- 身近な暮らしの中で環境問題を考える

EMIELD 株式会社

代表取締役（起業）

在学中に参加した、開発途上国の貧困・教育問題を知るタンザニアへのスタディツアープログラムは「当たり前とは何か」を問う貴重な機会でした。現地の現状を知り、路上に住む子どもの教育を支援するボランティア団体を立ち上げました。その経験から「事業を通じて社会課題を解決する」という人生の軸が定まりました。その後、経営コンサルティング会社へ入社し、5年半務めたのち退職。起業し、企業のサステナビリティ経営を支援する事業を展開。本質的な社会課題と企業の経営課題の解決につながる仕組みを提案しています。大学の講義や学内の起業塾で学んだ「持続可能な課題解決」の視点は、現在も私のビジネスの核です。今後も、「前を向いて生きたい」と希望を感じられる世の中を創れるよう、社会課題の解決につながる挑戦を続けていきます。

Life after G



「昨日の自分を越えること」が私のモットーです。遠い未来のありたい姿を描きつつ、昨日の自分を越える挑戦が、想像もしていなかった機会を生み、今の自分をつくっています。

My Background



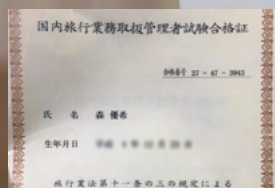
大学1年生

大学のスタディツアープログラムでアフリカのタンザニアを訪問。今起きていることに「当たり前はない」と実感しました。



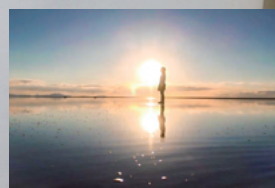
大学2年生

タンザニアの路上に住む子どもたちの教育・職業訓練を支援するボランティア団体を設立。日本で約50名のメンバーを集め、代表を務めました。



大学3年生

資格取得支援プログラムを活用し、国内旅行業務取扱管理者の資格を取得。10社以上のインターンシップに参加しました。



大学4年生

3年次までに単位を取り終え、人生を見つめ直し感性を磨くため、世界を回りました。大学の4年間で訪れた国は11ヶ国にのぼります。

西川 大揮さん

2018年卒業
(兵庫県立西宮高等学校 出身)

株式会社伊藤園

伊丹支店 勤務

飲料メーカーに勤務し、小売店などのお客さまへの新商品の提案や、その月の注力商品の案内、売り場づくりまでを行っています。商品の発注にしても、新規導入にしても、お客さまと良好な関係性を築くことが重要です。信頼関係があつてこそ、新しい提案も受け入れていただけます。訪問した際は世間話など何気ない会話に重点を置き、少しずつ関係性を築くようにしています。この考え方のベースになっているのが、大学時代の学びです。所属していた言語学のゼミで、言語の壁を超えて人間関係を構築するためのコミュニケーション力の重要性について学びました。その経験が、今の仕事にもつながっています。さまざまな部署を経験してスキルを磨きながら成長し、一人でも多くの方に私たちの商品の魅力を伝えていきたいと思っています。

raduation

My Background



大学2年生

ゼミ活動の一環で、ドイツの留学生を京都と大阪へ英語で案内しました。片言でも気持ちさえあればしっかり伝わることを学びました。



大学3年生

ゼミの先生のすすめでベトナムでのインターンシップに参加。全国から集まった仲間と共に、日本の文化を活かした店舗売上向上策を実践しました。



大学3年生

政策学部恒例の討論会で、商店街の国際化プロジェクトについて発表。夜遅くまでメンバーで意見を出し合い、充実した活動になりました。



大学4年生

憧れのヨーロッパ4ヶ国を旅しました。日本から持って行ったけん玉を現地の人に披露するなど、とても楽しい2週間を過ごしました。

Careers

キャリア教育の取り組み

就職に強い学生を育てる政策学部独自のキャリア教育

1年次から就職を意識した目標を設定し、そのためにはどのように学んでいくかの動機づけを行う科目を用意しています。さらに2年次からは「働く」ことに対して社会・経済・雇用環境などの観点から理解を深めます。業界研究・企業の現状や展望を理解する科目もあり、就職に強い学生の育成をめざします。

政策学部独自のキャリアイベント

公務員セミナー・ガイダンス開催

政策学部では公務員試験に向けた試験対策勉強会を開催し、教員による公務員試験準備指導・相談を行うなど、公務員への就職を手厚くサポートしています。また、公務員の仕事を理解し、求められる知識やスキルについて考えるために、国会議員や地方自治体首長経験者を招いての講演や本学OBによる公務員体験談を聞く機会を提供するとともに、公務員試験合格者によるセミナー、試験対策ガイダンスなどを実施しています。



キャリアシンポジウムの開催

社会に出てから求められる人材像を明らかにし、学生時代の過ごし方を考える機会を提供するために、企業の経営者や人事担当者などによる講演や社会で活躍している政策学部卒業生によるパネルディスカッションを実施しています。政策学部での経験が仕事にどう生かされたかなど、リアルな体験談に触れることになり、政策学部の学生にとっては、早期から将来を見据え、自らのキャリア形成における気づきを得る場となっています。



起業家マインドも育む政策学部～実践的な学びが多様な選択肢につながる～

政策学部では、社会における問題・課題を「発見」するところから課題を解決する「実行」に至るまでの実践型教育を行うなど主体的な学びを展開しています。実際にビジネスの手法で社会課題を解決する社会起業家を多数輩出するなど、自らが考え実行する力が身につくことで活躍のフィールドが広がります。

株式会社アカイノロシ

地域の価値発掘に取り組むなか、ゼミ活動をととしてタイ北部のコーヒー農園と出会いました。現地を訪ねた際、地域に埋もれているタイ産コーヒーに価値を見出し、事業化を考えるようになりました。現在は、直営店2店舗とフランチャイズ1店舗でコーヒー専門店の運営とコーヒー豆の卸販売などを行っています。まずは京都にコーヒーブランド「Laughter」の旗艦店をオープンさせ、多様な商品開発や事業を展開しながら、海外にも活躍の場を広げたいと思っています。

矢野 龍平さん

2019年卒業
(京都府立北稜高等学校 出身)



株式会社はたけのみかた

伏見の「生産者と消費者をつなぐ活動（伏見わっしょい新党）」をきっかけに持続可能な農業の実現、起業への思いが強くなり、卒業目前に株式会社はたけのみかたを設立しました。創業以来、栽培期間中化学合成農薬・化学肥料不使用の食材を使用した「manma 四季のベビーフード」の開発・製造・販売を行っています。この事業は、新市場を開いた革新的な取り組みであると高く評価され、海外への出荷もスタートしました。今後はさらなるステージに挑戦します。

武村 幸奈さん

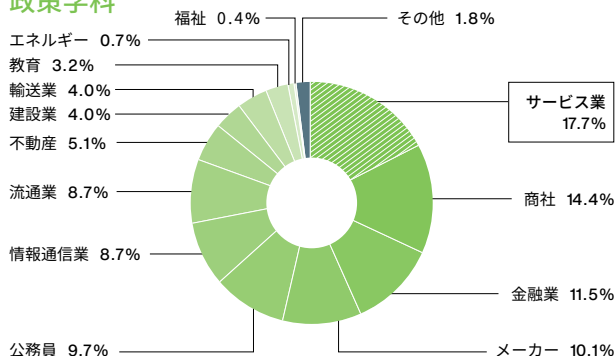
2015年卒業
(滋賀県立草津東高等学校 出身)





就職状況（2024年3月卒業生）

政策学科



【主な就職先】

在学中に培った社会課題発見・解決能力を活かし、公務員、NPO、民間企業など幅広い業種で活躍

- 積水ハウス株式会社
- 大和ハウス工業株式会社
- 株式会社村田製作所
- 関西電力株式会社
- 近畿日本鉄道株式会社
- 東日本旅客鉄道株式会社 (JR東日本)
- 株式会社良品計画
- 株式会社京都銀行
- 株式会社ジェーシービー
- 東京海上日動火災保険株式会社
- 株式会社みずほ銀行
- 明治安田生命保険相互会社
- 株式会社りそな銀行
- 国税庁 (国税専門官)
- 京都府庁
- 滋賀県庁
- 東京都庁
- 京都市役所
- 長浜市役所
- 滋賀県警察本部 など



京都市役所 内定

持続可能性を追究した 経験を府政に活かす

学部では、持続可能性について研究し、京都府綾部市志賀郷での地域活性化活動に取り組みました。住民との交流会や小学校での授業を行うなかで、地域活性化には住民の愛着が最も重要であるとわかりました。現地での活動によって培われた対話力、ゼミで得た多様な視点は、公務員試験の面接にも役立ちました。府民の声を活かした、魅力ある京都府づくりをめざします。

新井 千陽さん

4年生
(京都府立峰山高等学校 出身)



京都市役所 内定

(国家公務員採用総合職試験 合格)

市民が誇れる 街づくりに挑む

地域創生や東京一極集中の弊害、人口減少問題の研究に取り組みました。国と地方自治体が過去10年間でやってきた人口減少への施策を追究するなかで、多様な視点と分析力が身につきました。これらは、京都市が直面する山間地域の衰退や観光公害といった問題解決にも通じる重要なスキルです。国際文化観光都市の魅力を高めつつ、市民が誇れる持続可能な街づくりにめざします。

中内 一聡さん

4年生
(京都府立鴨沂高等学校 出身)

特定非営利活動法人 気候ネットワーク 内定

脱炭素社会の実現に 向けて、環境政策を探究

学部では環境政策、エネルギー政策を主に学びました。学内の学生気候会議で環境問題への知見を深め、フィンランド研修を通じて環境先進国における環境政策のノウハウを学びました。大学で得た専門知識や実践的な活動経験が、面接での評価につながったと感じます。学びと経験が直結する環境政策を扱うNGOで、世界と協調しながら脱炭素社会の実現をめざしていきます。

中西 航さん

4年生
(大阪府立山本高等学校 出身)



株式会社 地域計画建築 研究所(アルバック) 内定

研究経験を活かし 持続可能な未来を描く

在学中は都市政策を学び、特に都市のイメージに関して研究しました。海外学会などでの研究発表や伏見地域のまちづくり活動に取り組みました。授業や研究での知見と地域での実践の往復から都市政策への理解が深まったと感じます。多様な経験と専門的な知見が都市計画の専門企業の内定につながりました。実社会で課題解決に取り組みつつ、大学での知識に立ち返り学び続けたいです。

吉田 瑞希さん

政策学部2023年卒業
政策学研究科修士課程2年生
(神戸市立工業高等専門学校 出身)



深草キャンパス

京都市伏見区深草塚本町67

Tel 075-645-2285 seisaku@ad.ryukoku.ac.jp

大阪、奈良、兵庫から好アクセス

JR「大阪」駅 → 約42分

京阪「京橋」駅 → 約41分

近鉄「奈良」駅 → 約43分

JR「三ノ宮」駅 → 約63分

龍谷大学のブランドストーリー

世界は驚くべきスピードでその姿を変え、
将来の予測が難しい時代となっています。
いま必要なことは、「学び」を深めること。
「つながり」に目覚めること。
龍谷大学は「まごころある市民」を育てていきます。

自らを見つめ直し、他者への思いやりを発動する。
自分だけでなく他の誰かの安らぎのために行動する。
それが、私たちが大切にしている
「自省利他」であり、「まごころ」です。
その心があれば、激しい変化の中でも本質を見極め、
変革への一歩を踏み出すことができるはず。

探究心が沸き上がる喜びを原動力に、
より良い社会を構築するために。
新しい価値を創造するために。

私たちは、大学を「心」と「知」と「行動」の拠点として、
地球規模で広がる課題に立ち向かいます。
1639年の創立以来、貫いてきた進取の精神、
そして日々積み上げる学びをもとに、様々な人と手を携えながら、
誠実に地域や社会の発展に力を尽くしていきます。

豊かな多様性の中で、心と心がつながる。人と人が支え合う。
その先に、社会の新しい可能性が生まれていく。
龍谷大学が動く。未来が輝く。

You, Unlimited

龍谷大学 政策学部

あらゆる「壁」や「違い」を乗り越えるために、「まごころ」を持ち、
「人間・社会・自然」について深く考える人を育む。
それが、龍谷大学の教育のあり方です。

自分自身を省み、人の痛みに感応して、
他者を受け容れ理解する力を持つ。
人類が直面するリアルな課題と真摯に向き合う。
そして様々な学びを通じて本質を見極める目を養い、
自らの可能性を広げていきます。



<https://www.policy.ryukoku.ac.jp>

※掲載の学年、所属は取材時のものです。

2025年4月発行